

「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」

1. 協議テーマの選定理由

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠くことのできないものです。

しかし、我が国における子どもの読書離れが言われて久しく、また本町もその例外ではありません。そこで、本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために町や図書館、また地域として何ができるか、何をすべきかなど今後の取り組み方策について協議を行いました。

2. 協議の経過

- 第1回 平成30年5月15日（火）平成30年度社会教育委員会議第1回図書館部会
趣旨説明、協議テーマの決定
- 第2回 平成30年10月30日（火）平成30年度社会教育委員会議第2回図書館部会
審議テーマ「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」に関する協議
- 第3回 平成31年2月5日（火）平成30年度社会教育委員会議第3回図書館部会
審議テーマ「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」に関する協議（委員提案
資料含む）
- 第4回 令和元年5月28日（火）令和元年度社会教育委員会議第1回図書館部会
審議テーマ「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」に関する協議（委員提案
資料含む）
- 第5回 令和元年10月29日（火）令和元年度社会教育委員会議第2回図書館部会
審議テーマ「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」に関する協議（学校図書
に関する参考資料、委員提案資料含む）
- 第6回 令和2年2月4日（火）令和元年度社会教育委員会議第3回図書館部会
審議テーマ「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」に関する協議

3. 委員からの主な意見

【子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくりについて】

- 総合図書館へは、小学校低学年までは、父、母、祖父、祖母に連れてきてもらうことが多い
ため、連れてくる側の、一般の方が来るきっかけ作りが欲しい。
- 小学生の子のための本を自分（大人）のカードで多く借りていたため、実際に小学生はもっ
と多くの本を読んでいるのかもしれない。
- 中学生は、総合図書館の学習室を利用している。（しかし読書にはつながっていない。）
- 学習室を利用する学生に向けて、学習室にお勧めの本の設置や紹介をしてはどうか。
- 家庭、地域、学校等での人づくり、環境づくり、情報収集・発信の方策を検討する。
- 高校生は通学時間や部活動などで開館時間内での利用は難しいが、友達からの口コミなどで、
図書館につながりができれば、利用促進も見込める。
- スマートフォンやタブレットを所持している学生も多いので、総合図書館でWi-Fiが利用で
きることは利便性が高く望まれるサービスであるが、ゲームなどの学習目的ではない利用に
ついては、利用用途の掲示や声掛けなど注意を払う必要がある。
- 図書館に興味を持って足を運んでもらうための方法が近年はイベントによる集客が増えて
いる。小中学生や、利用の少ない高校生からのYA（ヤングアダルト）世代に来館してもらい

貸出までつなげる工夫がほしい。

- 未就学児や大人への図書館に来館する機会は多く作られている。中学生、高校生の世代に何かできるか検討したい。
- 図書館で来館してくれることを待つだけでなく、子育て支援センターへ出向くなど、館外で本の魅力を伝える活動も重要。幼少期から親子で本に親しむことで、家庭教育も充実するし、成長してからも読書習慣や、図書館に足を運ぶことに繋がる。

【図書館のイベントについて】

- ターゲットを明確にすることが大切。乳幼児、小、中、高校生の区分ごとが妥当か。
- 子ども対象のイベントの申し込みは平日朝が受付開始ではない方がよい。現在は働く保護者が多いので、申込日は土日にする等の配慮すること。
- わくわく読書マラソンは非常に良い企画で、全年齢を対象にすべき。
- 今回の図書館まつりはとても良い視点。このイベントの集客が今後の利用にどう結び付くか注目している。
- 図書館の認知、図書館利用の促進について、現在の取組で足りているか。イベントによる集客は単年のものであり、今後の図書館利用に結びつくか未知数である。

【読み聞かせ活動について】

- 毎月のおはなし会について、総合図書館と比べて北部、南部公民館の参加者数が少ない。総合図書館は設備や蔵書数、駐車場が多い利点もあるが、伝えられる図書館のノウハウを公民館にも公開し、貸出や集客につなげてほしい。
- 図書館と公民館の読み聞かせボランティアの交流を行ってはどうか。
- 学校で読み聞かせボランティアを行っている人の悩みは「何を読もうか」が多い。総合図書館で読み聞かせのための情報が得られ、「相談承ります」といったサポートや、図書館スタッフに相談できること自体を周知してもらえると良い。
- 小学校では読み聞かせ活動が行われているが、忙しい保護者が多いので、朝の読み聞かせ活動を終えてから仕事に出勤する人もいる。そのような時間が限られている人でも読み聞かせ活動が継続できるような支援があると良い。
- 子どもが卒業した後など、時間に余裕ができた人などが学校の読み聞かせ活動に参加できる仕組みがあると、忙しい保護者の支えになる。
- 学校で読み聞かせ活動をしている人々の交流や相談できる体制を総合図書館が担えると良い。
- 図書館の読み聞かせ会に参加できる家庭ばかりではないので、学校だけでしか読み聞かせを聴く機会のない子どもたちのために学校での活動は充実が望まれる。また、学校で読み聞かせ活動から図書館に自主的に行くことへ繋がられると良い。

【学校図書室と総合図書館の連携について】

- 学校では司書教諭や図書委員会の担当教員が読書指導員や図書委員と連携をとって、児童生徒が図書に親しむ工夫をしている。
- 中学校では、生徒と先生が静かに本を読む10分間の朝の読書が定着している。
- 中学校の図書室は、新しい本が多く入るようになって利用が増えている。中学生は本に関心があるし、本を読んでいると感じている。
- 学校図書室の活性化のため、学校図書室を総合図書館の分室にするといった発想の転換も必要。
- 総合図書館に図書のリクエストをし、学校で受け取れるようなサービスや、スマホが利用券の代わりになったら良い。

- 子どもたちに図書の利用を促すために、学校の先生に関わってほしい。ブックトーク等を行うことで、図書に関心を持たせ、貸出率の増加につなげることができる。
- ホームページから総合図書館の蔵書検索ができるので、学校にPRしたらよい。
- 学校図書室と総合図書館との連携・支援を進め、団体貸出やテーマ別リストの作成、本のリクエスト等の活用をして結びつきをより深めてほしい。
- 学校での図書予算が限られている中、教員が総合図書館を積極的に利用して、授業づくりに生かしてほしい。図書館に調べに行くという教員の姿勢が子ども達にも図書館に行く意識づくりとなる。
- 子どもに対する「積極的な働きかけ」といった意味で、先生方に総合図書館に関心を持ってもらうことは大切なポイント。先生方の会議に図書館会議室を使うなど、自然に図書館に関心を持たれるような施策を行ってはどうか。
- 最近では子どもたちのスマートフォンの利用時間が増えていることから、「夜9時にはスマートフォンをやめて、読書をしよう」といった啓発を家庭、学校、地域で行ってはどうか。

4. まとめ

協議テーマである「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」取り組むべき課題として、家庭では子どもの読書活動の推進、学校では学校図書館への支援、中学・高校生の利用者に対する図書館サービスの充実、地域では読書活動を推進するための個人、団体との連携や図書館からの情報発信の充実があります。

また、図書館へ足を運ばない、読み聞かせや読書習慣のない子育て中の家庭に向けて、子育て支援センターや学校など図書館以外の場で本に触れる機会を作るといった総合図書館のアウトリーチ活動の推進も望まれます。

2年間の協議で出された様々な意見は、現実的には実行が難しいものもありますが、今後の総合図書館の事業計画に反映されていることを期待するものであります。